

特集

備える

防災備蓄倉庫ってなに？



物資拠点

- 神栖市総合防災備蓄倉庫
- 神栖市役所防災備蓄倉庫
- 波崎総合支所・防災センター防災備蓄倉庫



①神栖中央公園の総合防災備蓄倉庫 ②飲料水は約4万本を備蓄
③子ども用の物資もある ④スターターを引上げて発電機を起動する安井さん ⑤防災トイレ用テント ⑥ワンタッチで組み立てられる防災ルーム。「キャンプ道具のような扱いやすさ」と語る額賀さん

今回は、防災備蓄倉庫にスポットを当てて災害への備えに迫ります。皆さんは最近、防災について家族や身近な人と話し合ったことはありますか？ 実際には、どういう備えをしていますか？ この機会に見直してみましよう。

自然災害にどう備えるか

私たちに忘れてはいけないことのない3月11日。あの東日本大震災から、今年で12年が経ちます。日本は、位置や地形、気象など自然災害が発生しやすい条件がそろっており、これまでも地震、津波、台風、豪雨、豪雪、火山噴火など多くの災害に見舞われてきました。ニュースなどで災害を目の当たりにしたとき、「我が家の備えは大丈夫だろうか？」と自分のこととして考える。それがとても大切な防災の第一歩です。

神栖市で想定される災害は、洪水、土砂災害、津波などが挙げられます。とくに利根川沿岸で堤防が整備されていない区域は、大雨による増水に注意が必要です。また、神栖市は海と川に挟まれているため、津波が発生したときは川からの浸水にも備えなければならず、鹿島港からの浸水も広範囲に及ぶとみられています。他にも、地震や台風、それによる断

水や停電などはすべての皆さんに関わりがあります。そこで今回は、備蓄という面から防災について考えてみます。



公園で防災の工夫を発見！

神栖中央公園は、市の防災拠点。広大な園内のあちこちに、防災の工夫が凝らされています。いざという時に、ベンチは炊き出し用の「かまど」に、一人掛けのイスはトイレに、パーゴラは救護所に早変わり。地面の下には100トンもの飲料水を貯める耐震性貯水槽が隠れていて、防災井戸は、手動で水を汲み上げることがができます。さらに、家用発電機、太陽光発電型LED照明、ヘリポートまであります。

そして中央芝生広場の東側に見える建物、防災備蓄倉庫です。いったい何を拡充した結果、以前よりプライバシーが保たれ、より心身への負担が少ない環境となっています。実際にパーテーションを組み立ててもらいました。肩にかけて持ち運べる丸いバッグにテントが収納されており、それを取り出し、広げて立ち上げると四角い箱状になります。床に断熱効果のあるアルミシートを敷けば、防災ルームのできあがり。天幕を開けておくことで、体調不良の方をすぐ発見できます。

「背の高いパーテーションも各避難所に一つずつ備え、女性の更衣室や授乳室として活用できるようにしました」

同じく防災トイレ用テントも、コンパクトに収納しワンタッチで組み立てられるタイプです。他にも炊き出し器具、発電機、照明器具、燃料携行缶、給水袋、車いす、担架、台車、ウエットタオル、ペーパー歯磨きなど、さまざまな物資が整然と保管されていました。

便利で多彩な非常食

続いて2階を見学。ここだけで食料が約8万食、飲料水が約4万本備蓄されています。棚に積まれた箱を

たい中に何が入っていて、いつ、どのように使うのか、防災安全課の安井貴弘課長補佐、額賀桃子主事に聞きました。

「市内にはここを含め3カ所の物資拠点があり、さらに公民館や小中学校など21カ所に備蓄倉庫があります。神栖市全体で、1万人・1週間分の食糧と飲料水を備蓄しております。避難所を開設したときに必要となる水や食料、毛布、資機材などをそろえており、市内の各避難所で物資が不足したときはここから運び込みます」

防災備蓄倉庫の中身は？

神栖中央公園の防災備蓄倉庫は2階建てで、備蓄スペースは975平方メートル。さっそく1階から見学をスタート！

「新型コロナウイルス対策などで、パーテーションや簡易ベッド



防災井戸と、いざというとき防災トイレになるイス